



コンゴ共和国プロジェクト

このたびは、JX 日鉱日石エネルギー株式会社が「エネゴリくんのふるさと、豊かな森の生物多様性を守る活動を支援する」という CSR 活動の一環としてのクリック基金を開始され、日本の NPO・JWCS（野生生物保全論協会）の生息地支援プロジェクトをサポートすることになり、まずは感謝のお言葉を申し上げます。生息地支援の一部として、JWCS の理事である西原が携わる WCS（下記、注を参照のこと）コンゴ共和国・野生ニシローランドゴリラ研究保全プロジェクトに支援が決まりました。これまでこのクリック基金の経緯に関わってくださったすべての方々、および今後ともクリック基金に賛同して下さる方に、あらためてお礼を申し上げます。



コンゴ共和国北部は、アフリカ大陸の中でも有数に残る熱帯林（写真左）という自然環境とそこに生息する野生生物の宝庫です。とくに、1993年に WCS の提言のもとに設立された約 4,000km² の面積のヌアバレ・ンドキ国立公園は世界でも数少ない原生熱帯林であり、その周辺部も含めて、野生ニシローランドゴリラが高密度で生息している地球上での稀少な地域です

（下部地図参照）。

この地域でのニシローランドゴリラの調査は、WCS よりも前に、京都大学の類人猿研究チームにより 1988 年より開始されました。西原も 1989 年から関わり、ゴリラの生態学的調査の成果をもとに 1994 年に博士号を取得しました。このたびの生息地支援では、当時の調査域に近い「モンディカ」といわれ

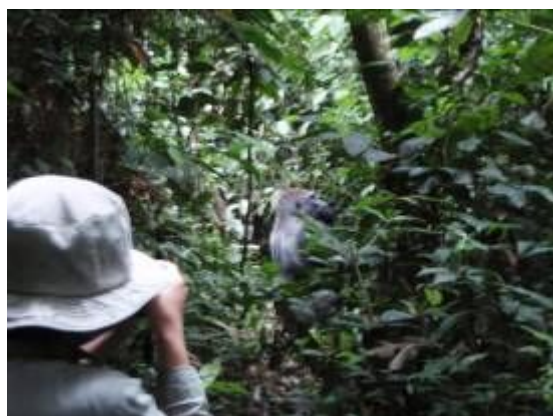


る場所でのゴリラの研究と保全の継続に必要な資金の一部に充てさせていただきます。

モンディカ地域は正確に言うと、国立公園の中ではありませんが、その南西部に隣接する場所（**地図参照**）で、「特別保護地域」に指定されています。この地域はもとよりゴリラの頭数が豊かであることから 1980 年代後半から調査がされていま



したが、本格的調査は 1995 年からアメリカの Stony Brook 大学の研究者たちにより始まりました。最大の目的は、密林の中で直接観察の難しいゴリラを「人付け」（餌など一切与えずにゴリラが人間の存在に慣れることで、自然状態でのゴリラの観察できる方法）作業をすることでした。その後 2005 年以来、研究は当国立公園とその周辺部の管理に関わる WCS にゆだねられ、現在に至るまで、二つのゴリラ・グループが人付けされました（**写真上**）。



人付けされたこれらのグループに関しては、一頭一頭が個体識別され、それぞれ個体のライフストーリー、食事の内容から、個体同士の社会関係、グループ同士の関係など、これまで解明されていないことを解明するための多岐にわたる長期調査研究が進んでいます。また 2007 年からはエコツーリズム（**写真左**）を開始し、海外からの訪問者にもこれらゴリラ・グループの観察の機会を提供しています。日本では、すでにツアー会社（株）

道祖神がここへのツアーを企画しています（<http://www.dososhin.com>）。日本からのお客さんに対しては、西原による現地での直接のガイドやセミナー付きとなるよう試みているところです。また、世界でも稀に人付けに成功したニシローランドゴリラを報道しようと、世界各地から撮影隊や写真家、ジャーナリストも訪れています。今年の 11 月後半からは日本の写真家が現地に来ることになっています。

WCS は、今後とも長期にわたり、このモンディカ地域を中心としたニシローランドゴリラの研究とツーリズムを継続していく意向です。ただ、研究者、トレーニング中のコンゴ人研究者、ゴリラを追跡するトラックナーなどの人件費、食料や装備、施設などのキャンプ維持費、さらにアクセスの悪いモンディカまでの物資補給のための輸送費など、諸経費が相当数かかっております。一方、キャンプでの人員収容数の範囲内での、また人間の存在によるゴリラへの負荷を最小限に抑える範囲内でのエコツーリズムであるため、それによる収入ですべての活動費が賄えていないのが現状で、従来は諸経費すべてに見合うよう WCS 独自に資金などで充填してきました。プロジェクトをさらに継続し、改善してい



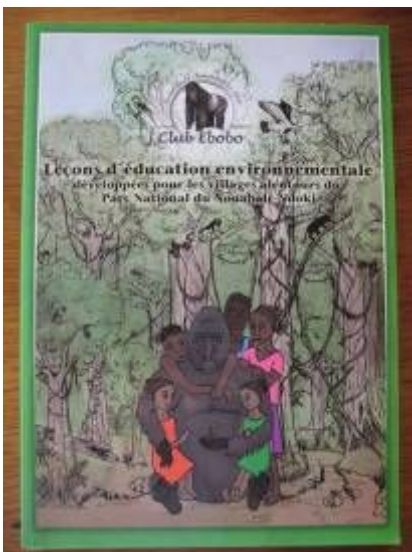
くためにはさらなる資金が必要となってきました。それはエコツーリズムがスムーズに回転していく方途ともなります。今回の JWCS の生息地支援では、この一部を充填させる方向で使用していくことを考えております。

今回以降の 3 か月ごとのレポートでは、この支援金がどのような形で使用され、その結果得られたモンディカのゴリラの研究成果のトピックや、エコツーリズムの進展状況などについて報告をしていきます。モンディカという世界で類をみない場所とその地でのニシローランドゴリラの保全はいうまでもありません。しかし、ゴリラの肉やペット取引を目的とした密猟(写真左上:密猟されたゴリラ、右下:押収したゴリラの手と肉)、

熱帯材の伐採などによるゴリラの生息地である熱帯林の消失、そしてエボラ・ウィルスの猛威などにより、ニシローランドゴリラは全般的に生息の危機に瀕しています。場合によっては、モンディカ地域以外でも、WCS の関わるニシローランドゴリラの保全に緊急を要する場合があります、そちらの費用の補完にも使用されることがあるかもしれません。また WCS コンゴが実施しているゴリラを含めた野生生物保全に関する現地での教育活動にも随時この資金を充てることもあると思います(下:ゴリラの保全教育活動に使用している WCS コンゴ作成の教科書の表紙)。



これらにつきましては、時々刻々と変わる現場の状況をもとに、臨機応変に対応していく所存です。今後とも、みなさまのあたたかいご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます(執筆者:西原智昭;写真提供:西原智昭・西原恵美子)。



注: WCS = Wildlife Conservation Society. ニューヨーク・ブロンクス動物園に本部を置く国際野生生物保全 NGO (<http://www.wcs.org>). WCS コンゴはそのコンゴ共和国支部である。JWCS とは名は似ているが全く別の組織。西原は 1989 年以來、コンゴ共和国、ガボン共和国などアフリカ中央部・熱帯林地域にて、調査研究、国立公園管理、自然環境保全などに従事。現在、西原は、ヌアバレ・ンドキ国立公園とその周辺地域での自然環境保全マネージメント技術顧問を務めている。西原のプロフィール詳細は、<http://www.arsvi.com/w/nt10.htm> を参照のこと。